

科目名		授業形態	担当教員名	
生涯発達心理学		講義	橋本 幸典	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>受精卵から出生・成長・成熟・老化そして死というヒトの生涯にわたる発達変化を理解することを目的とする。医療に携わる上でヒトの発達過程の詳しい認識を持っておくことは大切である。従事する仕事や患者さんとの関わりの中でこの知識は役に立つことと思う。授業は、先ず発達の基礎的テーマについて述べる。続いて、ピアジェやヴィゴツキーなどの理論に触れながら、各発達段階での変化や重要なポイントを解説していく。</p>				
授業の到達目標				
<p>先ず発達をどう捉えるか、遺伝と環境がどのように発達に関わるかを学習する。さらに発達の理論について学ぶ。続いて各発達段階における重要なポイントについて理解してゆく。その主なものを以下に記す。・体内環境の重要性 ・出生直後からみられる子どもの有能性 ・母子相互性 ・学童期以降の知的発達や社会性の発達 ・青年期の自我同一性 ・成人初期の課題 ・中年期の問題点 ・老年期の知的能力 等。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	発達の捉え方 (1) 発達とは何か・発達を規定する要因			
2	発達の捉え方 (2) 発達における臨界期・初期経験			
3	発達の捉え方 (3) 発達理論			
4	胎 児 期	体内環境の重要性		
5	新 生 児 期 (1)	新生児の眠りと大人の眠り		
6	新 生 児 期 (2)	子どもの有能性		
7	乳 児 期 (1)	ホスピタリズムとアタッチメント理論		
8	乳 児 期 (2)	母子相互性		
9	幼 児 前 期	コトバの獲得と自己中心的世界		
10	幼 児 後 期	脱中心化と遊びの展開		
11	児 童 前 期	具体的操作と仲間関係		
12	児 童 後 期	形式的操作と達成動機		
13	青 年 期	自我同一性の確立とモラトリアム		
14	成人初期・中年期	就労、結婚、親になること・中年期の危機		
15	老年期・まとめ	その知的能力と死の受容		
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	60%	発達過程の理解・専門用語の理解		
レポート	30%	2回 与えられた課題についての論述・その理解の程度による評価		
小テスト	10%	2回 その時の授業の理解の程度により評価		
平常点				
その他				
自由記載	講義資料を配布			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
子どもの発達心理学	田島信元・西野泰広 他		福村出版	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
誕生を記憶する子どもたち	デーヴィッド・チェンバレン		春秋社	
子どもとことば	岡本夏木		岩波新書	
生涯発達心理学のすすめ	子安増生		ゆうひかく選書	
自由記載				
備考				